

# 田村バイオマス発電所

## 稼働開始による周辺への放射性物質汚染及び周辺環境調査経過報告 —たまあじさいの会

我々たまあじさいの会は、2021年8月初めに福島県田村市大越地区に出掛けました。今年3月から本格操業を開始した、バイオマス発電所からの今後懸念される放射能の拡散を監視するためです。

この地区は阿武隈山地の中にありますが、福島1F爆発による汚染は幸いなことに比較的軽微で済みました。しかしこの地で、国や県は代替・再生エネルギー推進のお題目を掲げ、発電目的で福島の木材資源を燃やすのです。あろうことかバイオマス発電所に田村市は12億円もの補助金を支出してのことです。それで市民は『大越町の環境を守る会』を立ち上げて裁判闘争を含む反対活動を繰り返しています。

簡単に言うと、税金（復興予算）で自分たちだけの利益のために、福島県の山林をはげ山にして、今は森の中でおとなしくしている放射能を、今度は田村市の大気中にCO2とともに、まき散らし汚染して、高い電力代金で買い上げてもらって利益を出す。まさに一将功成りて万骨枯れる。それでは国は大赤字となるからその差額は再生可能エネルギー発電促進賦課金として消費者にそのツケを回すだけなのです。

一般の電力消費者には実質17%の値上げに他なりません。国の補助金を湯水のごとく使って、山に眠る放射能を再度まき散らし（放射能循環型社会？）、挙句の果てに阿武隈の森は丸裸となり、洪水・水不足、熱帯化・異常気象、新たな疫病さへもが頻発する引き金となるでしょう（我々を内部被ばくで免疫低下させてからアタックする気か！）。これでは再生可能エネルギーではなく、日本国絶滅促進、再生不可能補助金。復興予算ではなく、亡国予算とも言えます。

日本という国がダメになっても、『国破れて、山河あり』ならば、いつの日か本当の再生を期待できるでしょう。しかし『国破れて、山河も滅亡』ならば、もはや奥の細道だけでなく原発再稼働で、豊蘆原瑞穂の国もお終い。救いようがありません。『美しい国ニッポン』とか言いながら、国や県や市や大企業はどうしてこんな民への愚行を繰り返すのか。この田村バイオマスからは放射能は漏れ出さない約束だといいますが。だったら、もし本当にこの施設周辺の放射線量が高まる事実が観測されたとしたら、当局はどうするのか！？

もう言い訳は通用させないぞ！！ 我々はリネン布17枚を大越地区に設置しました。これが風にたなびき、空気中の浮遊している放射性物質（体内低線量被ばくの元凶）をキャッチし



田村バイオマス工場は福1の東、距離にして30キロ



田村バイオマス工場は福1の東、距離にして30キロ



田村バイオマス工場

ます。その時の風の流れ、風向・風量を連続計測できる機器も二か所に設置し、そのデータは wifi によって刻々と当会のパソコンに既に届けられています。これらで放射能の空気中の流れ、一定期間中のフローを把握できます。

さらにホット・スポット・ファインダー(HSF)という地図上に空間線量を記録できる装置でもって、空間線量、つまり放射能汚染の変化、ストックの増減を捉えます。また同地区にある幾多のモニタリングポスト(原子力規制委員会)の公表されている過去と直近のデータを比較・解析することで、空間線量の変化を調べれば、それは公的な裏付け資料ともなり得るでしょう。恐れ多くも、当局、お上のなさることは、この国を滅ぼす方向にあるとしか思えません。ならば市民が手弁当で、なけなしの体力と知恵でおかしな現象が生じていないか、これからも本当に安心できるのかを調べるしかありません。



リネン布の共同設置作業

幸いなことに『大越町の環境を守る会』の皆様とも温い信頼関係が築けています。また高木基金からは当会に手弁当の足しとなる差し入れをしてもらい、物心両面での支援を受けます(これは復興予算とは180度反対の浄財ですよ)。何よりも我々のモチベーションは、盛夏の強い日差しを浴びて隆々と緑に輝く阿武隈の山、川、森、田園、里山。人々の人情と環境を守ろうとされる情熱です。これらを放射能でさらに汚して、壊してしまっただけでは我々にも罰が当たるとの思いです。帰りの車の中は、地域の皆さんからの差し入れの夏野菜で満艦飾でした。

文責 古澤



水質調査は工場の南側を流れる水路を中心に6月に行った6地点を計測

工場周辺を炎天下ホットスポットファインダー(HSF)で線量調査



( たまあじさいの会 お知らせ 2021年9月号 カラー版よりモノクロ版へ編集転載 )